

# 藤田浩子の 少し昔のこと 〈107〉

## 便所

便所はたいてい家の隅、廊下の突き当たりとか、または外に作られていました。東北の便所は汲み取り口からピューピュー冷たい風が入ってくる長居はしたくない場所でした。その汲み取り口から汲み取ったオシッコやウンコは肥え桶に入れ、天秤棒で担ぎ、肥料にするために畑に運びました。ときには畑や道の脇に肥溜めを掘り、肥えを寝かして（醗酵させて）おきましたから、ときどき子どもが落ちました。溺れるような大きなものではありませんから大騒ぎにもならず「ウン（運）がついた」と言われたりしました。私の夫もその1人で、大学に合格したとき「ウンがついていたからだ」と言われたとか。

高度成長期、水道が各家庭に引かれて上水道が整った次は下水道です。下水道が整う



前から水洗便所にする家庭が増えて、各家では水洗でも、排水をどこかに溜めて定期的にバキュームカーに引き取ってもらうという、いってみれば不完全な水洗便所があちこちでできて、新婚時代の私の家もそんな不完全な水洗便所でした。そういう不完全水洗便所が増えたので、それを追いかける形で、各地で下水道の整備を始めました。

ヴィクトル・ユゴーの「レミゼラブル」（ああ無情）を読んだとき、ジャンバルジャンが、傷ついた娘の恋人マリウスを助けるのにマリウスを担いで下水道を逃げる場面があります。1800年代の半ばにフランスにはもう下水道が、それも多少屈んだとしても人間が通れるぐらいの太い下水道が整備されていたのかと、そのことに驚いた私です。今は日本でもほとんどの地域で下水道が完備されているでしょう。トイレも水洗になりました。

畑の肥料も化学肥料になって、子どもが落ちる肥溜めのなくなり、もう「ウン」がつくこともありません。

リレー連載 <237>

## わたしの大好きな絵本

ひめ（渡辺典子）

「だって私はおばあさんだもの…」が口ぐせの98歳のおばあさん、99歳のお誕生日と一緒に住んでる5歳のネコに99本のローソクを買ってくるように頼みました。でも、帰り道に落としてしまいい本になったことから5歳の誕生日を迎えたおばあさん。「5歳ってなんだか鳥みたい」「魚みたい」と言っては水たまりを飛び越え、川で遊び、「私、5歳なんだもの」と、楽しそうに何にでも挑戦していきます。読んでるうちにわくわく、笑顔になります。予防接種高齢者割引のある世代には応

『だってだってのおばあさん』

作・絵：佐野 洋子

出版社：フレーベル館

援歌のようであり、子どもたちには用心のため、危ないから…と禁止ばかりではなく、子どもらしく、面白いこと、楽しそうなことにチャレンジする元気を見守ってあげたくなるだ〜いすきな絵本です。さいごのネコのセリフも可愛い♡

